



Kosei Komatsu Exhibition 朝日町立ふるさと美術館移転開館記念 特別展

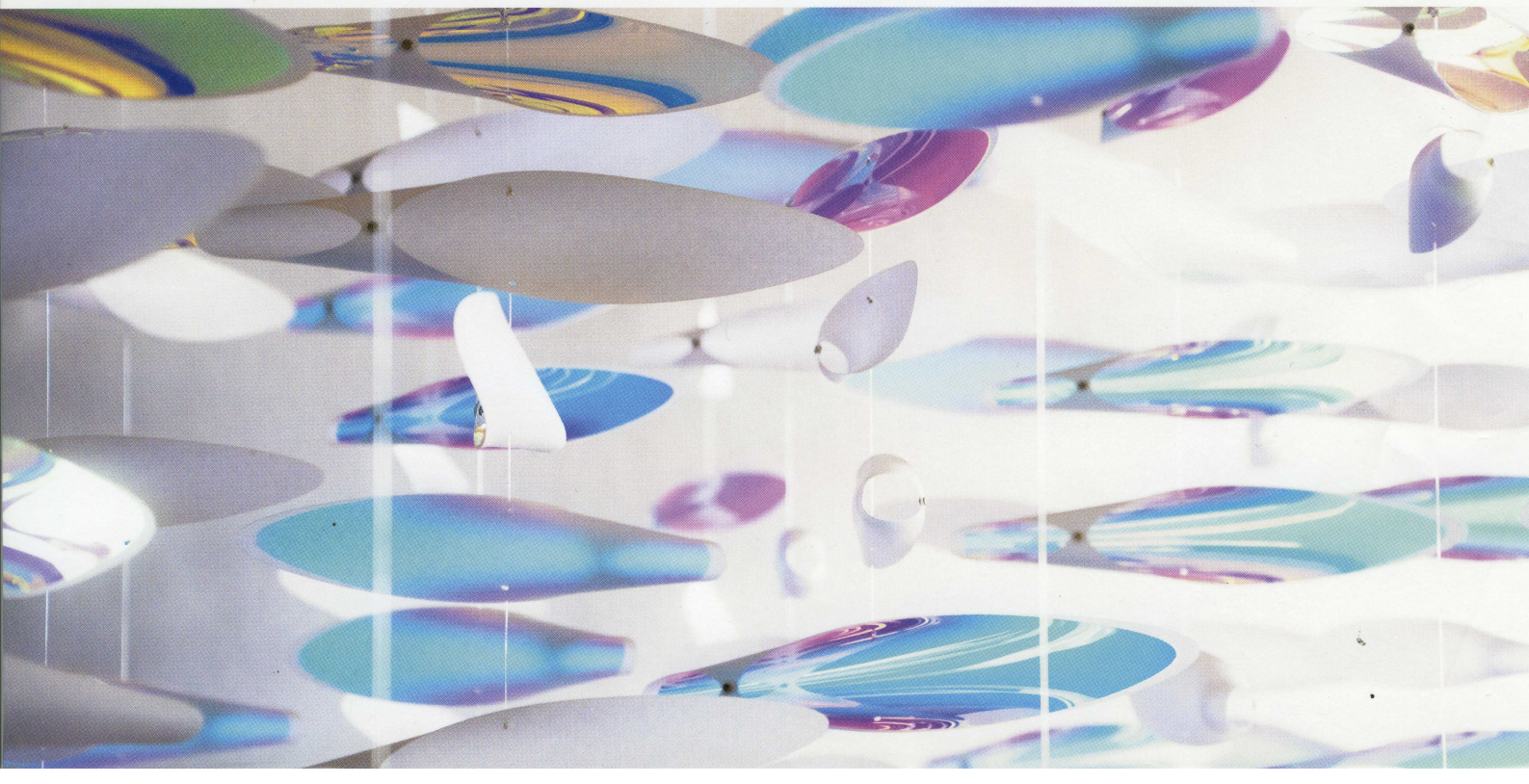
光と影のモバイル 現象する歌

2023.7.7 **金** — 9.10 **日** 朝日町立ふるさと美術館

開館時間=午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで) 休館日=火曜日 観覧料=大人600円 小中高生200円(常設展観覧料込)

住所=〒939-0724 富山県下新川郡朝日町横水300 TEL=0765(82)0094 <http://www.town.asahi.toyama.jp/buntai/museum.html>

主催=朝日町、朝日町教育委員会、(一財)朝日町文化・体育振興公社 共催=北日本新聞社 後援=北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、
新川コミュニティ放送、みらいTV、読売新聞北陸支社、富山新聞社、北陸中日新聞、朝日新聞富山総局、毎日新聞富山支局



Kosei Komatsu Exhibition 光と影のモバイル 現象する歌

皆さんは「インスタレーション」という作品形式をご存知でしょうか。空間的に配置された作品を鑑賞する事で、作家の持つイマジネーションを体験する。それがこの分野における最大の魅力ではないでしょうか。2023年7月に、新しく生まれ変わった朝日町立ふるさと美術館では、開館記念となる第1弾の展覧会として、この「インスタレーション」を得意とするモバイルアート作家であり、武蔵野美術大学で教鞭をとる小松宏誠氏に焦点を当てる。今展では、当館での新しい取り組みとしてインスタレーションの特徴を活かし、壁面展示はもちろん、動き、光、音を利用した作品、そして待望の野外展示と、新しい体験のある展示を実現した。

小松氏が創り出す作品の多くは、自身が憧れる「浮遊」を原点とし、現在は空間を美しく彩るモバイルや羽根の立体作品が代表的だ。大量の素材たちが風に吹かれて煌めき、廻り続ける風景は時の流れを忘却させる。また、2014年に旧美術館において開催された特別展において誕生した作品であり、まるで水中の古代生命が息をしながら静かに揺らめく作品「プワッツ」(三好賢聖+小松宏誠)や、蜘蛛の巣を用いた絵画シリーズ「Network_Monument_-scape」(石渡愛子+小松宏誠)が、時を経て進化を遂げた姿、音楽家Sawako氏とのコラボレーションも見どころとなっている。

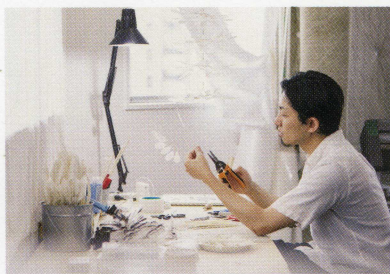
今展では響き渡る幻想的な音楽とモバイルが織りなす美しい異空間に魅了されるに違いない。

小松宏誠ギャラリートーク

関連イベント

日時 2023年7月7日(金) ①11:00 ②14:00 各1時間程度
入館料大人600円、小中高生200円で入館、そのまま参加できます

小松宏誠 Kosei Komatsu



1981年徳島県生まれ、2004年武蔵野美術大学建築学科卒業。2006年東京藝術大学大学院修了後、アーティストグループ「アトリエオモヤ」のメンバーとして自然の物理現象を用いた作品制作を開始。2014年に独立。「浮遊」や「鳥」への興味からはじまり、現在では「軽さ」「動き」「光」に着目した作品を展開中。美術館での作品展示をはじめ、商業施設など大空間の空間演出も行う。2022年武蔵野美術大学建築学科特任准教授着任。

「釜山ビエンナーレ Living in Evolution」参加(2010)。「Wearing Light」ISSEY MIYAKEとのコラボレーション(2014)。「LEXUS Inspired By Design」のCMに作品が起用(2014)。「六本木ヒルズ ウェストワーク クリスマスデコレーション Snowy Air Chandelier」(2014)。この作品がDSA日本空間デザイン賞2015優秀賞を受賞。「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」参加(2015、2022)。「日本博」オープニング・セレモニーにてインスタレーションを担当(2020)。「Kosei Komatsu Exhibition 光と影のモバイル 森の夢」金津創作の森美術館(2022)など。



上くLifelog_シャンデリア 中くプワッツ (photo: 津島岳央)
下く風の花びら (photo: Shin Inaba) ※田園調布せせらぎ公園での展示風景
表面上く雨のうた (photo: Shin Inaba) 表面下く海のモバイル

アクセス

〒939-0724 富山県下新川郡朝日町横水300番地
TEL: 0765 (82) 0094 FAX: 0765 (83) 3636

電車の場合: あいの風とやま鉄道駅よりタクシーで15分
自動車の場合: 北陸自動車道朝日I.C.より10分

